

ヤーラ・アラニスのカルト

The Cult of Yara Aranis

B 3 t

1. 神話と歴史

皇帝ターケンエギがシェン・セレリスに最初に殺され、ペントの地獄に着いた時、不吉にして忌まわしい女神、第四階層地獄のゴゴーマと寝ようと試みた。ゴゴーマは最初、赤の皇帝の如き単なる半神と寝る理由などないと大いに異議を唱えたが、皇帝は生まれる子もたらす暴力と死、混乱と恐怖を示し、ゴゴーマを納得させた。

皇帝は専念すべき重要な仕事のため、ゴゴーマの出産前に自らの道を歩き続けて去った。皇帝は立ち去る前にこの件に関わる者たちに具体的な指示を残した。ヤーラ・アラニスが生まれた時、ゴゴーマは畏怖(fear)と恐怖(horror)の秘密の術(すべ)を彼女に教え、他の何よりも強い武器として彼女の本能と憎悪をどのように使うのかを教えた。単なる子供として、ヤーラ・アラニスは蝙蝠の女神マハクオータ(Mahaquata, the bat goddess)の避難所に受け入れられ、彼女からの「死」と「切断」(Severance)の扱いの秘密を学んだ。以来、ヤーラ・アラニスは地界では偉大な狩人として名高い。

ヤーラ・アラニスが成人すると、ゴゴーマは彼女を捨てた。ゴゴーマの仲間は彼女を追放し、ヤーラ・アラニスは独りぼっちになった。幸運にも、皇帝は娘が後からついて来れるように、足跡 馬蹄の跡を残していた。ヤーラ・アラニスは怪物達に出遭ったが、どの遭遇においても、彼らを貪り食い、進み続けた。とうとう、ヤーラ・アラニスは第四階層地獄のアダマンの扉の前に着いた。彼女は「怪物の男」ビンバロス(Bimbaros the Monster Man)に出会った。ビンバロスは、醜さで比肩できるのはゴゴーマだけであると言われる、彼女の忌まわしさ故にヤーラ・アラニスから顔を逸らした。扉を通り過ぎて、彼女は足跡に沿って歩きつづけた。

ついに彼女はナヴェーリア地方に到着し、大地の大きな裂け目から這い出した。彼女は徘徊しては居住者たちを威嚇し、がらがら声で唸り、彼女の好物「馬」を狩った。ヤーラ・アラニスは地面を這いまわり、しばしば「悪魔の蜘蛛」と呼ばれた。ある闇の季、地面を霜が覆う頃、皇帝は自身のために娘を改心させようと決心した。彼はある夜外へ出向き、彼女を見つけた。皇帝にとって、娘との戦いに勝利するのはたやすかった。彼の力は娘のそれを凌駕していたし、父親であるが故に彼女の弱点の全てを知っていたのだ。彼はヤーラ・アラニスが獣のような憎しみでもって戦うのに対し、知性と策略をもって勝利した。彼は娘を地面に組み伏せ、革帯で娘を縛りつけ、その上にまたがり「夢の都」へと帰った。

皇帝は娘のために仮兵舎を立て、それはガルトアラ(Galtara)、もしくはグッド・ショアと呼ばれた。ヤーラ・アラニスはその地で河から飲み食いできた。ヤーラ・アラニスが仮兵舎を逃げ出そうとすると、皇帝は彼女を止めるために現われ、容易に打ち負かし、彼女に新たな傷を残し、自分の宮殿に帰っていくのだった。皇帝は毎日仮兵舎に入り、彼女と会話をしようとして試みた。毎日、彼女は戦って皇帝を追い払った。三季の後、皇帝はついに中に入ってきた。それから皇帝は、話し方を教えたり、また彼女の運命とルナーの道を教えたり、そして啓発と策略や機知、思考や計画、知性が、情念や本能と同じくらい重要であることを教えて過ごした。生まれ持った感情と、知性ととの二つを組み合わせることによって、ヤーラ・アラニスは制止できない殺戮機械となった。

これがすんだのち、皇帝は「月の腕(かいな)」(the Arm of the Moon)を用い、彼女を月へ送り込んだ。戦用の呪鍛した月の石製の刀剣を授かるため、赤の女神の宮廷に列席するよう命じられたからである。まだ月の上には馬がいなかった(もしくは彼女に食わせる馬はいなかった)ため、父の宮殿に帰還した日には、ヤーラ・アラニスは餓えのために競走馬を全て貪り食ってまだ満足しなかった。だが彼女が月へ去っている間に皇帝が娘の住居を作っていたと聞き、

ヤーラ・アラニスは喜び、宮殿の調度を食べたり使用人たちを苛んだりするのを止めた。

ヤーラ・アラニスはその建物に留まっていたが、3/42にやってきた最初の騎馬遊牧民 ヤーラ・アラニスを殺し、名声を得ようとしてその住処を襲った を殺した。彼女は犠牲者の魂を石に呪縛して寝床を守らせ、以来狩りのために寺院の領域を離れることが出来るようになった。父の厩舎よりも多くの馬がいることに気付くやいなや、彼女は躊躇なくその地へ赴いた。ペントの地で、彼女は良い狩り場と数多の精霊の奴隷を見つけた。彼女はそれらの奴隷を使役して自身の憎悪、恐怖、邪悪を真似させ、忌まわしき精霊が彼女の住処を完全に守護するようになった。始めは女神を恐れていた人々は、彼女の名を讃美し始めた。日ごとに人々は彼女の最近の勝利を語り、間を置かずして大勢の群集が彼女を礼拝するようになり、彼女を賞め賛えて住処の外に集まった。まもなく、ヤーラ・アラニスは地上における神となった。

ヤーラ・アラニスが生れた地でも眠ることができなかったため、時が経つと、父たる皇帝は幾つもの彼女のための住処を建ててやった。後には彼女は帝国中に住処を持つに至り、彼女の望むがままにペントの騎馬遊牧民を狩れるようになった。人々は喜んで彼女を助け、彼女が求める時には供物や魔法的な助けを与えた。

これより8年後、シェン・セレリスが自身の軍隊を率い彼女と対面にやって来た。彼はヤーラ・アラニスのカルトと戦い、彼女と対面した。幸運にも、ヤーラ・アラニスと遭遇するとシェン・セレリス軍は女神に恐怖してしまい、指導者のみ残して逃げ去った。シェン・セレリスもヤーラ・アラニスも相手を傷付けることが出来ず、選択の余地もなく、シェン・セレリスは皇帝と援軍が彼を倒すべく到着する前に撤退した。

ヤーラ・アラニスは3/54(1409年)に神格化され、月の上で赤の女神の右手側に控えるようになった。彼女はそれ以後、赤の女神の足元に留まっている。例外はシェン・セレリスが赤の月の上にやってきた時だけである。ヤーラ・アラニスは彼と再戦したが、その時は彼に打ち負かされた。

このカルトは他の全てのルナー・カルトのように、真の死後の生を約束していない。ヤーラ・アラニスはどのようなものであれ、捕獲されたり呪縛されてしまった信者のゴーストは解放されること、カルトは多くの時間をこのことに費やすことを約束している。死体は食われるか、燃やされるが、これは信者の願い次第である。

カルトの関連するルーンは、「獣」「暮月」(Dark Moon)と「死」である。

2. カルトの生態

カルトはペントの全ての騎馬遊牧民の敵であり、彼らに対する軍事行動のほとんどに責任を負う。彼らは赤の平原の開拓に熱心であり、今日でさえ若い入信者は赤の平原に危険を冒して、数少ない開拓民を虐殺し、幾ばくかの馬を殺し、上層部の命令に対して騒動を引き起こしている。

カルトは「昇月の寺院」の守護に対しても責任を負っており、彼女の戦士達は常に見張りに立ち、武装し、鎧を着け、いつでも躊躇わずに殺す準備をしている。帝国内部でのカルトの義務は、主に防衛と見張りである。

彼女のカルトの味方は、「月の息子」の構成員、ゴゴーマ、赤の女神、そして七母神である。「待つ女」はヤーラ・アラニスが始めて月を訪れた時に、特別な神話的な関連を持ったようである。カルトの敵は、ペントの民であり、地界の守護者たち全てである。

カルトの聖日は「死の週」「荒の日」であり、大聖日は「闇の季」の聖日である。

3. 世界におけるカルト

カルトは全ての昇月の寺院で礼拝され、赤の平原とペントの国境沿いに多くの寺院を有する。社は同時に戦争向けの寺院と考えられ

ている。大寺院はグッド・ショアにある。人々は彼女を崇めており、七母神の儀式では彼女の騎馬遊牧民との戦いの役割に対してわずかの供物を捧げている。

彼女のカルトはルナーの軍隊の大部分と同様に組織化され、秩序だっている。

社では《馬恐怖》を教えている。

4. 入信者

「馬喰い」のカルトに入信するには、ルナー軍に参加する資格が無くしてはならない。16歳を越えており、どのような犯罪記録も持っていない（もしダンファイブ・ザーロンによって社会に債務を払っているならば別である）。ルナー軍のこの特殊部隊に参加するためには、以下のうち4つの試験に合格しなければならない；

（任意の武器）攻撃 （任意の武器）受け 騎乗 搜索 追跡。1ポイントのPOWを捧げなければならない。新たな入信者は、ヤーラ・アラニスと赤の皇帝に宣誓をしなければならない。これはヤーナファル・ターニルズの《誓言》を修正したものである。

全ての信者は、寺院の警護やペントへの襲撃など、カルトの務めに時間の90%を捧げねばならない。その見返りとして、賃金（年に850ルナーの支払いを基本として、一年毎に200ルナー増額し、最大で大司祭の年10,000ルナー）を受け取る。加えて、卓越した奉仕と行動によってはボーナスがあり、奉仕における格別の働きに対する司祭達からの非公式な報酬がある。多くの司祭は、持ってきたペントの民の首一つにつき20ルナーを支払ったり、祈禱師を殺した者にジンをボトルで与える。

彼らは鎧一揃いと共に、騎乗動物や武器の類を受けられ、全てのカルト技能の訓練を受ける。そして通常のルール通りに、精霊呪文、神性介入、神性魔術などを提供される。

精霊魔術：《惑い》《鋭刃》《機敏》《抵抗》《消沈》《敵の検知》《破裂》《鈍剣》《スタミナ》《熱狂》《鉄の手》《早足》《防護》《筋力》

5. ルーンロード

ルーンロードになるには、入信者は以下の技能を90%有していなければならない；（任意の武器）攻撃 （任意の武器）受け 騎乗 搜索。また以下のうち2つの技能を90%有している必要がある； 会話（新ペローリア） 読み書き（新ペローリア） 追跡 聞き耳 （第二の武器）攻撃。志願者は個人的な呪鍛された銀の鎧を一揃い有している必要がある（これは彼ら自身の賃金から差し引かれる）。ルーンロードはヤーラ・アラニスの入信者の一団を率いる資格を与えられ、鉄または銀の武器類を所有する名誉が与えられる。武器類はカルトからの贈り物として与えられるか、購入することにより入手できる。彼らは同盟精霊を与えられない。ルーンロードは神性介入を1D10で行い、神性呪文を再使用できる。

一般神性魔術：全て。

特殊神性魔術：《無敵》《銀呪鍛》《恐怖》《腕生やし》《馬殺し》《馬恐怖》

6. ヤーラ・アラニス特殊神性魔術

全ての呪文は、「ルナー魔術の周期」の影響を受ける。「赤の月の満ち欠け」を参照。

《腕生やし》 Grow Limbs

2ポイント、接触、残照、複合可、再使用可

この呪文は（訳注：呪文1ポイントにつき）対象に余分な腕を一本加える。対象は術者であるか、少なくともヤーラ・アラニスの入信者でなければならない。この腕は、戦闘において一人の敵に対しての武器による行動に20%加えるか、異なった敵に対して追加の攻

撃を加えるために使用できる。この呪文は腕を生やす呪文であって、使う武器が現れるわけではない。この呪文によって与えられる戦闘のボーナスは、短剣投げや投げ斧のような投擲武器を除いて、発射武器には適用されない。また通常許されない時に攻撃を許すわけではない（例えば、対象が攻撃的な呪文を唱えている時に追加の攻撃は出来ない、など）。

（この呪文を提供してくれた Steve Maurer に感謝を）

《馬殺し》 Kill Horse

2ポイント、遠隔、瞬間、複合不可、再使用可

この呪文は、《靈魂放逐》と同様である。但し、馬やロバ、そして同様の獣にのみ働く（ユニコーンには影響を及ぼさないことに注意すること）。術者が対象のMP抵抗を打ち破ると馬は死に、失敗した場合は1D6のトータルHPへのダメージを与える。

（この呪文を提供してくれた Dave Dunham に感謝を）

《馬恐怖》 Scare Horse

1ポイント、遠隔、残照、複合不可、再使用可

この呪文は単一の馬に影響を与える。術者のMPで馬のMPと対抗ロールを行うこと。失敗した場合、何も起こらない。成功した場合、可能な限り早く、術者から正反対の直線行程を取って馬は逃亡する。このために馬が中間の列を横切ってしまう、兵士に致命傷を負わせたり、さらに悪い事態を引き起こすかもしれない。これはしばしば軍の部隊を混乱に導く。馬の乗り手は振り落とされないように 騎乗 ロールに成功しなければならない。

7. 下位カルト

復讐精霊

信者がヤーラ・アラニスに背いて罪を犯した場合、復讐精霊は全ての馬に彼/彼女を用心するように警告をもたらす。もし背教者が馬に乗ろうと試みたら、彼/彼女を振り落とそうとする。

通常、破門された者は、裏切りの為に試み、酷く苦しめられる。

8. 友好カルト

ゴゴーマ

ヤーラ・アラニスの母親は、《支配（恐怖精霊）》を提供する。

ジャーカリアル

ジャーカリアルは憎悪と激怒が《神槌》の源である。彼女は《神槌》を提供し、モールやメイスの使用希望者に精霊呪文《棍棒》を教えている。

赤の皇帝

カルトの大司祭に、ヤーラ・アラニスの父親は《月槍》をあたえる。

七母神

彼らは《支配（ルナー・エレメンタル）》と《精神破壊》を提供する。

9. この文章について

著者：Nicholas Effingham

翻訳者：RIZE / 奥田和幸(zorak@nifty.com)

協力者：Y e l m / 村瀬尚之氏、まりおん / 掛川忠昭氏

このカルト記述はNicholas Effingham氏が作成した物を、R I Z Eが翻訳した物です。翻訳に関して、村瀬尚之氏並びに掛川忠昭氏に多大な協力を頂きました。感謝いたします。

この文章は公式版ではありません。この文章の使用に関しては、各人で判断して下さい。この文章の使用により、なんらかの不利益を被ったとしても、著者、訳者並びに協力者は何ら関知しません。